令和元年度 第3回 荒尾市総合計画審議会 議事録要旨

【日　　時】　令和元年10月28日（月）　14:30～16:30

【場　　所】　荒尾市役所　11号会議室

【出席委員】　別紙のとおり

【事務局】　石川総務部長、奥村総合政策室長、宮本、平山
米田農林水産課長、井手尾耕地水産係長

記録者：政策企画課　平山

１．開会

石川部長が開会を宣言し、配付資料の確認を行った。

２．新委員紹介

石川部長が、前回会議以降に新たに委員に就任された方を紹介した。

３．会長あいさつ

荒井会長があいさつを行った。

・本日は、次期総合計画において目指す将来像や重点戦略を中心に提案がなされる予定である。

・地区別ワークショップのレポートや荒尾未来づくり会議の報告書なども示されており、市民から色々な声をいただいているところであるため、これらの意見も踏まえながら、委員各位の積極的な意見交換をお願いしたい。

４．議事

荒尾市総合計画条例第８条第２項に基づき会長が議長となり、荒井会長が以降の議事を進行した。

（１）第２回荒尾市総合計画審議会における主な意見について

奥村室長が、資料１に基づき説明を行った。質疑等はなかった。

（２）荒尾市人口ビジョンの将来展望人口(案)について

奥村室長が、資料２に基づき説明を行った。主な意見等は以下のとおり。

≪主な意見等≫

○　社人研推計で 2045 年に 37,061 人という予想が出されている中、南新地地区に計画どおり 1,000 人の定住があったとしても、提案されている将来展望人口の実現は難しいのではないか。

→　南新地地区の再開発があるため容易に目標が達成できると考えている訳ではなく、提案している将来展望人口(案)の実現のためには定住人口 1,000 人の内訳も重要で、今回は「30 歳代の夫婦と 10 歳未満の子ども１人の家族が 300 組、60 歳代の夫婦が 50 組」市外から転入するという内訳で試算をしているが、この条件に加え、合計特殊出生率と社会動態に関する条件も達成できなければ実現が難しい状況ではある。しかし、近年の合計特殊出生率の状況に鑑みると、社会減少幅を抑制することができれば、達成が不可能な水準とは考えておらず、地域の活力を維持するためにも目指していきたいと考えている。(事務局)

○　厳しいハードルではあるが、南新地地区の再開発が今後の荒尾市の成

長の契機であることは間違いないため、政策努力を続けながら、目標達成を目指したい。

（３）第６次荒尾市総合計画(仮称)の将来像(案)及び重点戦略(案)並びに基本目標(案)について

平山が、資料 3-1 及び資料 3-2 に基づき説明を行った。主な意見等は以下のとおり。

≪主な意見等≫

○　将来像について「つながり」を重視した内容とされているが、地区別ワークショップにおいても「つながり」というキーワードは多く出ており、人のつながりを充実させることについては市民の期待も感じるところである。

○　野原八幡宮の節頭行事への関わりを通じて地域コミュニティの重要性を改めて感じたところである。守るべきものを守りながら、交流につながる取組みを増やしていければよいと思う。

○　長く荒尾市に住んでいるが、隣人の顔を見ない日も多くなっている。役員のなり手がないことなどもコミュニティの希薄化につながっていると思う。提案された将来像(案)に賛成する。

○　近所付き合いのあり方なども変わってきており、挨拶などは積極的に行うようにしているが、新興住宅地などは町内会に入らない世帯もある。働き世代は時間に余裕がないというのは分かるが、学校行事などで地域の協力を得ようとしても、子どもや親の顔が分からず困ることもある。役員は大変だというイメージが先行し、なり手が少ない現状もあるが、実際にやってみると楽しいものでもある。ネガティブなイメージを払拭できるよう考えていく必要がある。

○　災害が少なく安心できるという評価が高いが、災害に対する備えはやっておかなければならない。今年度地区防災計画の策定などを進めているが、実際に災害が発生した際に機能するものにしておくことが大切である。

→　共助の考え方を含め、地域が将来に亘り持続することができるよう、「つながり」を重視していきたい。(事務局)

○　南新地地区の開発によるメリットばかりが謳われているが、市内からの移住者が多くを占めることや、他の商業施設が衰退することなどデメリットも考えられるのではないか。先端技術の活用に当たっても、情報弱者等にも配慮して進める必要がある。

→　市外からの転入がベストであるが、子育て世代に魅力ある環境をつくることで定住人口を増やしていきたいと考えている。南新地地区が荒

尾駅周辺地域の新たなエンジンとなり、多くの交流を生んでいく起爆剤になればと思う。情報が届きにくい人への配慮も行うとともに、相乗りタクシーの導入などにより公共交通の充実を併せて行うことで、市全体の利便性を高めていきたい。（事務局）

→ 南新地地区は、先端技術などを積極的に取り込み、交通や物流などをはじめとした社会課題の解決を図る実験フィールドのような位置づけだと考えており、先行して生活利便性の高いエリアにはなるが、そこで効果が出た取組みについては将来的に市全域に拡げていき、まち全体の魅力を高めていきたいと考えている。（事務局）

○ 各地域でスポーツ行事や文化行事などが行われているが、今年度実施している地区別ワークショップも含め、市職員の参加が少ないと感じている。地域のつながりの重要性を職員自身が認識していないのではないか。行政協力員制度の見直しについても対策を計画に記載するべきでないか。
また、現在検討している内容などを含め、市民にいかに表現し伝えるか、広報活動も重要である。

→ 地域コミュニティの持続性についての課題は同様に認識している。持続可能な地域づくりに向け、自治会の担い手確保や市職員の関わり方などについても、昨年度策定した「荒尾市行政経営計画」に基づき取り組んでいるところである。
また、計画の内容を市民に分かりやすく伝えるため、今回は冊子のデザインに工夫を施し、製本・配布する予定である。内容については改めてご意見をいただきたい。（事務局）

○ 子育ては幼児教育も含まれるので、重点戦略②の中に「幼児教育」を入れていただきたい。

○ 市民のニーズや現行計画の検証結果を踏まえた良い内容になっていると思う。これから具体的に事業等を検討する中で、予算の裏付けはどうなっているか。近い将来財政赤字が発生することも予想される中、国や県からの予算を積極的に獲得する姿勢をもって取り組んでほしい。

→ 今後検討する事業については、新規事業だけでなく既存事業の充実も含んでいるため、全てが新たな支出になるという訳ではない。また、事業実施に当たっては、地方創生推進交付金をはじめ補助金等の活用も考えている。
地区別ワークショップにおいても人材や財源が不足するという意見が出ているので、地域と行政それぞれで優先順位をつけて取り組んでいきたい。（事務局）

○ 関係人口という概念は地方創生の中で提唱された考え方かと思うが、国としては、東京一極集中の是正が難しいとの結論に至ったとのこと

か。ＩターンやＵターンなどの概念はどうなったのか。
→　Ｉターン・Ｕターンをさらに充実させる考え方として関係人口という概念が示されたものであり、本市では「あらおファン」という言葉で表現している。

○　市民ニーズを踏まえた内容になっていると思うが、子どもたちの郷土愛を育むための取組みが重要だと考える。荒尾市で夢を持たせることで、Ｕターンにもつながるのではないか。南新地地区には他の地域にはない魅力が生まれると思うため、荒尾市は素晴らしいまちだと思ってもらえるだろう。
→　郷土愛を育むには中学・高校時代の地域との関わりが重要ではないかと考え、今年度「荒尾未来づくり会議」を初めて開催し、それぞれが持つ夢や目標について語り合ってもらった。資料にまとめたとおり参加者の評価も高く、今回の経験が今後に生かされることを期待している。教育委員会とも連携しながら今後も継続していきたい。（事務局）

○　現行計画で設定したKPIの半分以上が未達成という状況なので、その部分への対応を考えた上で計画を策定していただきたい。
財政面では、「荒尾市行政経営計画」や「荒尾市公共施設等総合管理計画」などの関連計画に基づき官民連携などを含め推進することになろうが、現在の荒尾市の財政はひっ迫している状況にあるとは考えていない。ただ、今後も財政需要が見込まれる中であるので、今回の計画でどの程度の予算が必要になるのかの見通しも触れておく必要があるのではないか。

○　子育てと教育の連携がポイントとなっている。市内高校への進学に関するニーズもある中、幼児教育から義務教育、高等教育まで一貫したサポートができるよう進めていきたい。

○　本市の強みに挙げられている内容には共感するし、将来像にも賛成である。日本全体で個人主義が進み、つながりができにくくなっている中であるが、社会全体の人間関係を良好にするというソーシャル・キャピタルが重要だと考えており、地域包括ケアシステムの構築を進めているところである。これ自体はどこの自治体でもやっていることだが、荒尾市の地域医療連携手帳の取組みは学会でも発表し高い評価を受けている。差別化を図ることが重要であり、外に向かって積極的に発信することも大事だと思う。

○　多くの人が「今だけ金だけ自分だけ」という考え方になっていると聞いたことがあり、これが地区別ワークショップでも意見が出ているような空き家問題や役員のなり手不足などの課題につながっていると思う。人と人とのつながりを充実させるためにはもっと地域でも頑張らなければならないこともあるだろう。

また、地区別ワークショップでは生ゴミとカラスの問題が出ていたが、市では生ゴミ処理機の購入費助成などを実施しており、これを活用すればゴミの減量化や処理費用の軽減にもつながると考える。市で行っている取組みが深く市民に浸透するよう、広報の仕方も工夫してほしい。

○　目標を実現するための取組みを今後十分に検討してほしい。子ども会の運営を考えると、共働き世帯が増えていることで時間的制約もあり、協力を得ることが難しくなっているところもある。活動を通じ子どもたちにいろいろな経験をさせるためにも、加入者を増やしたいと思うし、そのためにも親の収入の安定や時間のゆとりができることを願う。

○　昔であれば子どもの祖父母も近くにおり面倒をみてもらうこともできたが、今はそうでない親も多いので、何かしらの形で子どもをみてもらえる環境を整えてもらえたらありがたい。
また、市外に進学する人の数が多く驚いているところであり、地元の高校の魅力を高めてもらうとともに、学校の良さを積極的に発信してもらいたいと思う。

○　中小企業、特に規模の小さい企業で後継者不足が顕在化しており、廃業される例も出てきている。また、県レベルでも高校生の地元就職が減っており、県外の大手企業に流出してしまっている状況である。地元の工業高校に求人を出しても集まらないのが現状である。
なお、将来展望人口の目標年が 2060 年と先の話になっているが、この目標についてどのように伝達していくのか。
→　将来展望人口の進捗状況については、総合計画全体の進捗管理と併せて、毎年度本会議で報告し、協議いただくこととしている。国の動向等も踏まえながら、長期的に検証していきたい。（事務局）

○　荒尾・玉名地域における求職者数は 7％程度減少している中で、60 歳以上の方の占める割合が 37％と増加している状況がある。さらに 65 歳以上の方も 17％となっているので、現在、生涯現役支援窓口を設け、65 歳以上の方の支援に力を入れているところである。併せて、障がい者の高齢化も課題になっているため、障がい者雇用の推進に向け企業に依頼して回っている。企業誘致をする際は、国の助成制度等が活用できることもあるため、情報をいただきたい。
また、荒尾・玉名地域では外国人労働者の数も増えており、今後も増えることが予想される。「地域のつながり」という部分では、地域になじんでもらえるような取組みも必要であろう。

○　各種政策や助成金などの仕組みを作った後、それをどう市民に知ってもらうかが難しいと感じている。市役所に来ない方、地域活動に参加

しない方にどう伝えるかが重要であり、苦労するところだと思う。
また、将来像の検討に当たっての考え方として「地域コミュニティなど従来からのつながりを維持・充実させることで」とされているが、外国人労働者が増える中、従来からのつながりだけでは関係構築が難しくなってくるだろうと思う。

○　空き家が増えている中、外国人労働者も増加しているところであるので、外国人労働者の住居として活用するという方法もあると思う。建築業界も職員のなり手が減ってきているので、何か方策はないかと考えている。

○　農業者の高齢化と後継者不足が課題となっているが、食料を確保するためにも農業生産を守っていくことが重要だと考えている。限られた財源であるので、的を絞りながら農家への補助を行ってもらえば、他業種からの新規就農が増えるのではないかと思う。ただ、長期的に農業で生計が立てられるかというと、大規模化をすれば資金が必要になるし、難しいところもあると思うので、家族経営でコツコツと稼ぎ、新鮮な作物を消費者に届けることを考えていくべきではないかと思う。

○　Society5.0の到来で世の中が大きく変わり、利便性は上がると思うが、一方でそれを享受できる人とできない人の差が出てくることも予想される。ヒューマンネットワークも併せて構築していくことでそのような格差の是正に努めてもらいたい。
また、荒尾市の強みとして「周辺市町の雇用・教育環境の充実」が挙げられていたが、基本目標には「雇用の確保」も挙げられており、矛盾を感じるところもあった。

５．その他

石川部長が、那須副会長が今回の会議をもって退任されることを報告し、那須副会長があいさつを行った。

その後、米田課長が、資料４に基づき地方創生推進交付金事業の効果検証結果について説明した。質疑等はなかった。

最後に、石川部長が、議事録等を市ホームページに掲載するに当たり、内容の確認について協力を依頼した。また、次回の会議については１月下旬に開催を予定していることを報告した。

６．閉会

石川部長が閉会を宣言した。

以上